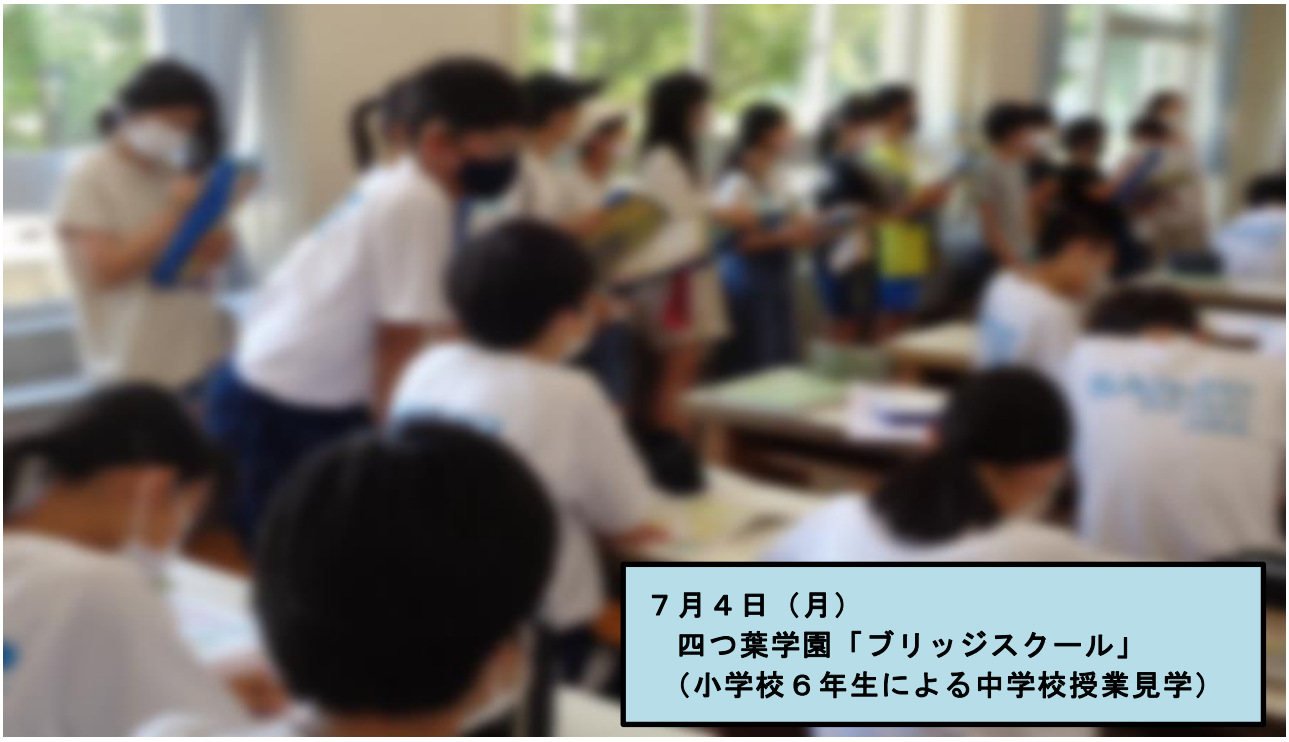
# 教育センター通信

## 火床（ほど）の火の心を紡ぐ

第４号（通算９８号）
令和４年７月２６日
三条市教育委員会
教育センター　発行

７月４日（月）
四つ葉学園「ブリッジスクール」
（小学校６年生による中学校授業見学）

## 「生徒指導」は何色？

学校教育課　指導主事　松原　康之

突然ですが、生徒指導を色で例えるなら何色ですか？色は難しいとしたら、生徒指導を言葉で表すとしたら何と答えますか？生徒指導に対する社会のイメージを調べていたところ、このように学生に聞いていた研究を見付けました。私も学生に戻ったつもりで考えてみたところ、色は赤で、「厳しい」と「ガミガミ」という言葉が頭に浮かびました。生徒指導の先生は、赤いジャージを着て、厳しい顔をして玄関に立ち、細かく注意する…何十年も前の私の記憶の中のイメージですので、今とはずいぶん違うと思います。

生徒指導は、児童生徒の問題行動等の解決のためのものと捉えられがちですが、私がイメージした頃の『生徒指導の手引(改訂版)』(昭和 56 年）には、生徒指導について非行対策といった消極的な面だけでなく、すべての生徒の人格のよりよい発達や学校生活の充実といった積極的な面も言及されていました。さらに、現在の『生徒指導提要』(平成 22 年)では、生徒指導は「成長を促す指導」、「予防的指導」、「課題解決的指導」の三つの指導と捉え、学習指導と並んで学校教育に重要な意義をもつものとされています。

この『生徒指導提要』も刊行から 10 年以上が経過し、この夏いよいよ改訂されます。先日、オンラインで行われた『生徒指導提要』の改訂に関するシンポジウムに参加しました。令和版の新しい『生徒指導提要』では、成長を促す指導等の「積極的な生徒指導」を充実させるとのことでした。また、生徒を中心に置いて改訂を進め、例えば校則の見直しについて生徒の関与についても具体的に記載される方向であるそうです。私は、今年の夏、改訂版の『生徒指導提要』で学びを深め、改めて生徒指導は何色か考えてみることにします。

# 学 園 紹 介

## 三条嵐南学園

三条嵐南学園は、家庭や地域と連携・協力して「地域とともに歩む学校」づくりを目指すコミュニティ・スクールを導入して３年目を迎えました。６月 13 日（月）に開催した第１回学園運営協議会及び小中学校別運営協議会では、最初に授業参観を実施し、嵐南小学校、第一中学校に分かれて運営協議会委員の皆様に子どもたちの様子を御覧いただきました。日頃お世話になっている地域の皆様から、「頑張ってるね」「いいあいさつだね」と声を掛けていただき、子どもたちもうれしそうに活動や学習に取り組んでいました。

学園運営協議会では、学園のグランドデザインや教育活動について学校から説明した後、目指す子どもの姿について熟議が行われました。子どもたちの学校や地域での様子やこれまでの取組をふまえて、あいさつを通して地域のつながりを広げていくためにはどうすればよいかについて意見が交わされました。後半は、小学校、中学校に分かれて学校運営協議会を開催し、地域の人材を生かした教育活動や地域クリーン活動の実施などについて話し合われました。

授業参観

第１回学園運営協議会

## 瑞穂学園

本成寺中学校１年生が出身小学校の西鱈田小学校、月岡小学校に出向いてのあいさつ運動が行われました。今年度は、「気持ちよくあいさつを交わし合い、小・中学生のきずなを深めよう」をねらいとして、事前にオンラインで小学生と中学生とが打ち合わせをする時間を設定しました。事前に顔を合わせることで、ねらいを共有したり、協力し合おうとする気持ちが高まったりしました。

当日はかわいいパンダも登場し、両校で元気なあいさつが飛び交っていました。

次回のあいさつ運動は、９月に中学校３年生が各小学校に出向いて実施する予定です。

あいさつ運動（６月 29 日　西鱈田小学校）

あいさつ運動（６月 30 日　月岡小学校）

## 三条おおじま学園

６月 30 日（木）に「深めよう‘絆’スクール集会」が行われました。目的は、「一人一人が居心地のよい三条おおじま学園」づくりを目指すことです。当日は、大島小・須頃小の５・６年生と大島中学校全校生徒、教職員、地域の方を合わせて約 160 人が集まりました。講師の森下英矢さん（新潟お笑い集団ＮＡＭＡＲＡ所属）は、子どもたちと即興昔話づくりを行い会場を和ませました。また、発達障害と診断されている御子息が日々逞しく成長している姿を紹介しながら、熱く語っていただきました。

その後、小中合同の縦割り班で、振り返りとシェア活動を行いました。「私は人と違う意見で決めつけたりするのは絶対にだめだと思いました。一人一人が違う人なので見方は変わるということが改めてよく分かりました。」「今回の講義で、改めて否定しないことの大切さを学びました。意見や考えに正解というものをつくらずに、なぜそう思ったのか理由を聞くことで、意見の違いや差も認め合える雰囲気をつくることができると思いました。」などの感想が出されました。

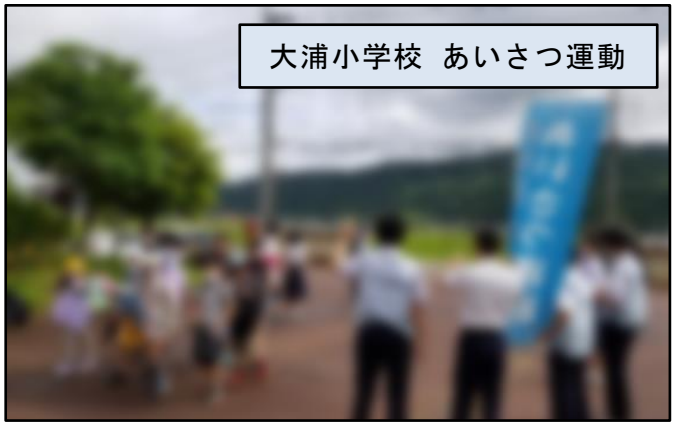
即興昔話づくり

縦割り班活動

## しただの郷学園

第１回しただの郷学園運営協議会では、学校から学園のグランドデザインを基に児童生徒の育てたい力について説明がありました。また、会長から「子どもの教育環境を整えたい。柔軟な思考とマインドをもち、子どもと地域をめぐるあらゆる活動に目を向けたい」という力強い言葉があり、目指す子どもの姿や地域の在り方について熟議が行われました。

第１回学園運営協議会


大浦小学校　あいさつ運動

毎月第２月曜日を「しただの郷学園あいさつ運動の日」と定め、下田中学校生徒がそれぞれの出身小学校に出向き、あいさつ運動に参加しています。参加総数は 90 人を超え、地域を明るくする主体として活動する姿に頼もしさを感じます。

写真は大浦小学校の様子です。一人一人と心を通わす温かな時間が流れていました。

## 特別な配慮に基づく児童生徒の支援研修（応用行動分析学）　７月８日実施

新潟大学教授の有川宏幸様から、応用行動分析学の基本について御講演いただきました。行動を客観的に分析し、望ましい行動に変えていくために、いつ、どのように、何を行えばよいのかを具体的にお話しいただきました。有川先生のお話と参加者の感想を抜粋して御紹介します。

【講演の中から（一部抜粋）】
・「行動」とは何かを知らずに分析はできない。「泣く」は行動だが「泣かない」は行動ではない。
・子どもがやっている行動の意味が分かり、共感から始めることが大切。アンガーマネジメントは、子どもだけでなく職員も必要。だから、一旦子どもの気持ちを受け止め、「～したかったんだね」と分析する時間をとる。
・行動を起点に、目に映ったものをそのまま記録して直前と直後を分析する。福祉や教育の現場では、「直後」よりも「直前の事象」を変えることが望ましい。学級の中なら、対象児だけでなく、周囲の状況、個々の子どもたちの結び付きの分析も必要。

【参加者の感想（一部抜粋）】
「トークンについて、はっきりと分かっていないまま実践していました。今回の研修を受けたことで原理がよく分かり、今後は理解した上でトークンができそうです。」「具体的な場面や例など、本当に分かりやすかったです。日々の学級経営の悩みにも今日学んだことを取り入れていきたいと思います。」

## 不登校児童生徒への対応力向上研修（第１回、７月５日実施）

三条市教育委員会の葛綿スクールソーシャルワーカーを講師として、カンファレンスシートの記入方法や、不登校の初期段階にある児童生徒や保護者への対応の仕方を学びました。

カンファレンスシートを記入することにより、児童生徒本人がもつ力の見直しや実態の把握ができ、支援を入れるポイントの絞り込みにつながることを学びました。

参加者からは、「児童の情報を書く時に、何を基準にすれば良いか分からなかったので、とても参考になりました。」「カンファレンスシートの作成により、情報を整理することができ、誰が何に困っているのかを見直すことができると思いました。」等の感想が寄せられました。

**相談援助の基本「バイスティックの７原則」**

1　個別化の原則（同じ問題は存在しない）
2　意図的な感情表現の原則（感情表現の自由を認める）
3　統制された情緒関与の原則（事例対象者に呑み込まれないようにする）
4　受容の原則（頭から否定せず、ありのままを受け入れる）
5　非審判的態度の原則（支援者の尺度で善悪を判じない）
6　自己決定の原則（自らの行動を決定する力の尊重と力を引き出す援助）
7　秘密保持の原則（「個人情報保護」対象者を不安にさせていないか）

また、学校現場で「状況が改善しない、しんどい…」と感じる時こそ、「チームで対応し、少しの変化をプラスにとらえられるようにすること」や、「現在、児童生徒ができていることに目を向けて、一人一人の成長過程を感じること」が必要であるという話がありました。

８月４日（木）に行う第２回研修では、グループワークを通して、児童生徒とその家族との関わり方や、外部機関との連携等のあり方について学びます。